

I 実践

〈本校の人権教育の目標〉

日本国憲法の概念である人権尊重の教育を生徒の発達段階や地域の実情をふまえながら推進し、学校教育活動全体を通して人権尊重の精神を高め、一人一人を大切にしたい教育の充実を図る。

1 生徒の学ぶ意欲を高め、確かな学力を身につける学習指導の推進

育てたい生徒の姿を「学ぶ楽しさを実感し、確かな学力を身に付けた生徒」とし、全ての生徒に安心して学習できる場を保障し、互いに学び合い、認め合う中で、確かな学力を身につけさせることを目標としている。全ての教科で、1時間の授業の中に小グループでの学び合いの時間を積極的に取り入れている。自分の考えが認められ、さまざまな友達の考えに触れることで仲間と学ぶ楽しさから、自己肯定感を高めると同時に、学ぶ意欲を高められるようにしている。

【小グループの約束】

- ・わからない人は隣の人に相談できる。
- ・わからないと相談された人は、徹底的に教える。言われるまでは教えない。
- ・グループのみんながわからないときは、他のグループに相談しても良い。



2 思いやりや自他を大切にする実践的態度を育む道德教育

年間道德教育計画をもとに、さまざまな題材の中で、考えを深め、互いに共有することにより、人権尊重の精神の涵養を図っている。

3 自己肯定感を高める学級活動

学級活動では、一人一人が自分を表現する場を積極的に設定し、周りの人がそのさまざまな個性を認め合える話し合い活動を取り入れている。特に互いを尊重した人間関係を構築できるよう、グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニングを積極的に活用することが必要とされている。こうした活動を継続的に取り入れることで、互いを大切にする人間関係を育て「自己肯定感」「自己存在感」を高められるよう努めている。参考資料としては「社会性を育てるスキル教育 35 時間」(図書文化 国分康孝監修)などを活用している。

4 人権に関する知識を深め、人権を身近に考える様々な活動

(1) 人権作文や人権メッセージへの応募

毎年全員で人権メッセージの作成に取り組んでいる。道德の授業などを通して、思いやりの心や命の大切さなどについて考えたことを、自分の言葉で発信することで人権感覚の育成を図っている。毎年継続して取り組んでおり、人権作文では、たくさんの生徒が応募している。



(2) 総合の学習の時間を通して

1年生では、「身近な地域における福祉について」をテーマとして、毎年12月に、地域の高齢者の方と交流会を行っている。交流会では、高齢者の方を招待して、パンポンや卓球などのスポ

ーツ、けん玉やカルタ取りなどの昔遊びを一緒に行った。共に活動することで、高齢者の方を身近に感じ、どういった接し方が望ましいかを学習した。

(3) その他の取り組み

その他にも1年生で「喫煙防止教室」、2年生では「非行防止教室」、3年生では「性に関する学習会」を行っている。自分の心と体に及ぶ様々な危険性などについてよく話を聞き、きちんとした知識を得ることで、互いを大切にするための心を育てている。

5 一人一人の人権を尊重する学校全体での取り組み

(1) QUTテスト、いじめアンケートの実施

年度当初の4月と年度途中の11月にQUTテストを実施し、学級経営に生かしている。また、いじめのアンケートを毎月行い、生徒が安心して学校生活を送れているかを把握している。

(2) 校長賞の活用

台原中では、生徒一人一人の良さを積極的に見つけ、認めるために「校長賞」という制度を今年度4月より設けている。賞を受ける対象としては、学年、学級、個人などがあり、具体的な内容としては、「ゴミ処理の手伝い」「牛乳パック処理」「友人を思いやる行動」「あいさつの良さ」「トイレの美化活動」など、教師が普段の行動の中に積極的に生徒の良いところを見つけ、認めていくようにしている。



6 成果

- (1) 授業における小グループでの学び合い活動を行ってきた結果、授業の中で自分の意見を発表できる場や、互いの多様な考えを認め合う場が増えたことで、「自分の考えを聞いてもらえてうれしい」「友達に良いところを認めてもらえてうれしい」など、自分を肯定的に受け止める発言が多くなってきている。
- (2) 校長賞では、何か特別な能力をもっている生徒だけが注目されるのではなく、普段の生活における何気ない行動の中に生徒たちのがんばりが認められている。校長室で校長賞を受け取る生徒たちの誇らしい表情から、成果を感じとることができる。教師側も積極的に良いところを見つけようとする視線に変わってきたことが、何より生徒たちを大切にする心につながっている。

II 今後の課題

人権教育は、特別な教育としてではなく、全ての学校生活の中で実践していくことの重要性を教師自身がまず気づいていくことが大事である。教師が生徒の良いところを見つけようとする姿勢を忘れず、継続していきたい。また、教師が生徒一人一人の個性や能力を適切に理解することが求められている。そして理解した上で、その生徒に合った適切な対応ができるよう臨んでいきたい。